

## 2018年度活動報告 CJP授業：プロジェクトワーク 話すB

著者	山本 真理, 浅津 嘉之
雑誌名	関西学院大学日本語教育センター紀要
号	9
ページ	45-45
発行年	2020-03-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10236/00028566">http://hdl.handle.net/10236/00028566</a>

## 2018 年度活動報告 CJP 授業：プロジェクトワーク話す B

山本 真理（関西学院大学日本語教育センター）

浅津 嘉之（関西学院大学日本語教育センター）

### 1. クラス概要

本授業では本学の広報室と連携し、留学生視点の大学 PR のための「映像制作 (documentary making)」を行った。履修者の日本語レベルは 1～2 (初級前半～後半)、週 3 コマ、全 14 回実施した。2018 年度の履修者は全 5 名であった。

### 2. 授業内容

本授業では目標を日本語学習のためだけでなく実際の「社会への貢献」に据えた。また、日本語を学びの対象としてだけでなく課題達成のためのリソースとして用いることを重視し、授業は以下のように進めた。

まず、第 1 回目の授業では広報室の担当者から直接学生に対して制作依頼を行い、学生には良い作品ができれば実際に大学のホームページ等への掲載も検討されることが伝えられた。教員からは 1) 単に広報室の要望に沿うだけではなく留学生視点でオリジナリティあるものを制作すること、2) 日本語の授業として言語的な側面にも注意を払うよう日本語のキャプションやナレーションをつけること、3) 日本語で日本人にインタビューする場面を必ず盛り込むことの 3 点を指示した。第 2 回目～第 4 回目に学生はターゲットとなる視聴者、コンセプト、映像全体の構成を決定した。その上で、第 5 回目～第 12 回目には撮影・編集技術について広報室の協力を得て学びながら、学生自身がディレクター、カメラマン、演者、音声等の役割を担って収録・編集作業を行った。第 13 回目で映像の最終確認と発表会に向けた準備を行い、第 14 回目でコンセプトや制作過程を他クラスの学生や広報室のスタッフ、日本人ボランティアに向けて日本語で発表し、完成した映像<sup>1</sup>を披露した。

### 3. 成果と今後の課題

学期を通じて学生は高いモチベーションを維持し積極的に活動に臨んでいた。学期末アンケートからも学生の高い満足度が確認された。一方で、グループ活動に困難を感じた学生のケアの不十分さや、課題達成型の授業における日本語使用の効果については課題が残されている。

---

<sup>1</sup> 制作した映像は関西学院広報室が運用する Youtube 公式アカウント <<https://www.youtube.com/user/KGPublicity>> で公開されている。